

第1回 鎌倉市観光基本計画策定委員会 会議録

日時；平成17年11月29日(火) 13時から15時5分まで

会場；鎌倉市役所2階 全員協議会室

出席者

委員；大嶋委員、大津委員、城戸委員、國生委員、小西委員、菅原委員、中根委員、
浜田委員、藤川委員、古谷（ふるたに）委員、古谷（ふるや）委員

職員；石渡市長（委嘱式まで）

進藤部長、植松次長、宮田課長、中野課長補佐兼担当係長、茶木副主査

会議の概要；

会議に先立ち、委員の委嘱、庶務事項の確認を行ない、委員長、副委員長には、互選の結果、古谷（ふるたに）委員を委員長に、菅原委員を副委員長に選出した。さらに、会議の公開方法や会議の運営、全体のスケジュールなどについて確認を行った。

審議事項としては、鎌倉の観光の現状等を踏まえ、現時点での観光に対する意見を伺った。

議事の概要；

1．開会のあいさつ

2．委員委嘱、市長あいさつ

- ・石渡市長より、各委員に委嘱状授与

石渡市長；

鎌倉市長の石渡でございます。

皆さまには、日頃より、本市市政にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、このたびは、鎌倉市観光基本計画策定委員会委員をお引き受けいただきましたこと重ねてお礼申し上げます。さて、すでにご案内のことと思いますが、本市観光基本計画は平成8年に策定され、10年が経過しようとしております。

この間、わが国の社会情勢、経済情勢が大きく変動してきているなかで、観光の分野についても、観光客の価値観の変化、旅行の目的やニーズの変化などとともに、旅行のスタイルも変わりつつあるのではないかと考えております。

国においても、観光産業がもたらす経済波及効果や雇用創出効果から、日本のリーディング産業になりつつあると期待し、特に外国人の誘致を積極的に図っていかうとする新たな施策を打ち出しています。こういった内外の変化を踏まえながら、10年を経過しよう

している観光基本計画を見直していくこととし、このたび策定委員会を設置させていただいたものです。本市では、歴史的遺産を大切に守り、次世代に残していくために、世界遺産登録に向けた取り組みを進めております。鎌倉を訪れる多くの観光客の方々をお迎えし、また来てみたいと思っただけの環境を整えていくことは、結果的に世界遺産登録に向けた取り組みとも大きく関係してくるものとも考えております。

この策定委員会からの答申につきましては十分に尊重させていただき所存でございますので、是非、活発なご議論をいただき、とりまとめをしていただきますようお願い申しあげまして、私の挨拶とさせていただきます。

・市長退席

3．庶務事項

(1) 委員長、副委員長の選任

・進藤部長が、暫定の司会進行役となり、各委員より自己紹介をお願いした。

委員；

私は公募委員としてここに参加しております。現在は自治会活動などに取り組んでおります。旅行が好きで鎌倉も大好きです。鎌倉はいろいろな観光資源も持っておりますし、海外でも有名です。そういった鎌倉の観光の活性化について考えていきたいと思っております。

委員；

かつて4年ほど民間の旅行代理店で窓口業務についていた経験があります。鎌倉が大好きなので、観光客に道を聞かれても本当に丁寧に教えたりしていますが、いまひとつ盛り上がりがないと感じておりますので、何か活性化策を考えたいと思っております。

委員；

会社では、グループ全体の観光や広報宣伝関係の仕事についています。グループ挙げての観光誘致、お客様へのもてなしを考えている。鉄道は7割が定期外なので、観光に依存しているといっても過言ではない。今後も多くのお客様に楽しんでいただきたいと思います。

委員；

神社庁の参加で神職をやっています。神職の立場から歴史、伝統、文化の話を国の光を見る(観光)ということからも話をさせていただきたい。

委員；

海水浴場運営委員会の立場で参加しています。材木座から腰越まで120数年の歴史を持つ海水浴場をみえています。しかし、過渡期にきているようで、海の家のある方、養浜対策など課題も多い。観光客数の5%ほどを受け入れている海として、お客様のご要望に対応した海水浴場を目指していきたいと考えています。

委員；

民間の観光シンクタンクから来ています。私個人は、東京住まいですが、子どもの頃から海水浴、ウインドサーフィンなどいろいろな世話になってきた経過があります。外からの視点で参加させていただきます。

委員；

鎌倉市仏教会副会長としての参加ですが、仏教会には105カ寺加入しています。

委員；

鎌倉市観光協会の理事として参加しています。観光協会の活動を踏まえて考えていきたいと思っています。同時に、私自身もアナウンサー、ジャーナリストとしての経験を踏まえた見方で参加したいと思います。

委員；

料理屋を経営しています。商工会議所の観光部会長として、かつ観光協会の理事として各種の行事に取り組んでおりますが、俳句&ハイク事業に取り組んでおり、観光振興という点からも観光のあり方も変わってきている。求められる観光のあり方とはどんなものか、サービスもいろいろだと思っています。その辺をしっかり考えていきたい。

委員；

藤沢市にある慶応大学からきました。都市計画が専門ですが、GPSを使った観光情報などについての研究とかもしております。昨年からは鎌倉市の各種調査のお手伝いもさせていただいています。

委員；

県の商業観光流通課の観光振興に取り組んでいます。以前は民間の旅行代理店にありまして、県の公募で現職についています。県の入り込み客数を18年までに1億7500万人にしたい。16年が約1億6000万人なので、2年間で2500万人増やさないとけないということで取り組んでいます。

・事務局職員の自己紹介に続き、委員長、副委員長の選任について意見募集

委員；

僭越ですが、委員長には学識経験者の古谷委員にお願いしたいと思います。あわせて、

副委員長には、鎌倉の観光と仏教会とは密接な関係にあると思いますので、菅原委員にお願いできればバランス取れてよろしいのではないかと考えますが。

- ・古谷知之委員の委員長、菅原委員の副委員長を全員一致で承認
司会進行役を進藤部長から古谷委員長へ交代

委員長；

委員長にご指名いただき、ありがとうございます。約1年間くらいになると思いますが、皆様のご協力をいただきながら、本会議の運営がスムーズに行え、最終的に素晴らしい提言、答申がまとめられたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

引き続き、副委員長をお受けいただいた菅原委員から一言お願いいたします。

副委員長；

あらためまして、よろしく願いいたします。一生懸命勤めさせていただきます。

(2) 会議の公開について

委員長；

それでは、会議次第に基づき、庶務事項から始めたいと思います。庶務事項の(2)会議の公開について、事務局説明をお願いいたします。

課長；

当委員会の公開についてお諮りするものですが、本市における同様の委員会では、特別に理由がある場合を除いて、一般の方の会議の傍聴を認め、傍聴者へ委員と同じ資料を配布していますので、当委員会においても同様の取り扱いにしたいと思います。なお、傍聴者は広報等で募集しますが、傍聴者数については、会議室等の関係もあり、その時々で5から10名程度、事務局にお任せいただければと思います。

また、会議録の公開も一般的に行っておりますので、当委員会においても公開をしていきたいと思います。会議録については、委員名を伏せた、概要的なものを公開してまいりたいと思いますが、それらについてお諮りします。

委員長；

事務局から、委員会自体、議事録の公開について、案が出されましたが、通常行われているということによろしいでしょうか。

特に意見なし

(3) 会議の運営について

委員長；

それでは、ご了承いただいたということで、次の(3)会議の運営について、事務局から説明をお願いします。

課長；

配布資料についての確認...すでにお送りしている6点に加え、本日、お配りした委員名簿の差し替え分を含め7点です。

資料集をご覧ください。1ページ目に当委員会の設置要綱、2ページ目に委員名簿がありますが、この名簿は訂正があり、本日差し替えをお配りしています。

3ページ目が見直しにかかるスケジュールとなっています。左側の委員会の欄は当委員会の開催予定となっており、本日が第1回目で、今後、1月中旬、3月下旬、5月、そして6月から7月までの計5回ほどで素案をとりまとめていただき、その後、その素案を市民に公表し、意見を求めようと考えています。その意見を集約し、最終的に9月下旬ごろまでに計画をとりまとめていただきたいと考えています。

当委員会でとりまとめていただいた計画は、行政内の個別計画などとの整合を図りながら、行政計画としていきたいと考えています。

中央の検討会の欄は、観光基本計画を見直していくにあたって、市庁内の関連する課との意見調整の場として、先ほどの行政内の個別計画との整合を計っていく場として、先月設置をしており、今後、当委員会と検討会との連携を図りながら見直し作業を進めてまいりたいと考えています。

続いて、当委員会の審議事項、最終目標についてですが、現行の観光基本計画は基本理念、基本方針をもとに、5つの目標を定め、そのなかで施策の方向性、さらに具体的な事業計画を定めています。

今回の見直しでは、計画策定後10年経過しており、観光を取り巻く状況も大きく変化しているであろうということから、特に行動計画にあたる施策の方向性や事業計画についての見直しを行っていただきたいと考えています。見直しを進めていく上で、5つの目標などの見直しも必要になってくる場合もあることも想定しています。

なお、この計画は観光課が実施していくべき事業だけでなく、観光に関連する他の部署の計画も取り入れた計画となっていますので、これについては、先ほど説明した検討会のなかで検討していき、それを当委員会にお示ししていきたいと考えています。

委員長；

事務局から配布資料の確認から、スケジュール、検討の方向性が示されましたが、何か質問等ありますでしょうか。スケジュールについては、この流れということになるかと思いますが、基本理念、方針等はあまりいじらずに見直しをおこないたいということなどについて、いかがでしょうか。

委員；

基本方針などをいじらずにということですが、現計画の概要がわからないと判断するのは難しいのではないかと思います。

課長；

次の項で説明いたしますので、それを踏まえてご質問いただければと思います。

・会議のスケジュールについて、次回を1月20日金曜日、次々回を3月の最終週にすることを確認した。

4．報告・審議事項

(1) 鎌倉観光の現状と観光基本計画の概要、進捗状況について

委員長；

では、事務局から鎌倉観光の現状と観光基本計画の概要、進捗状況について説明をお願いします。

課長補佐；

鎌倉市の観光の現状、観光基本計画の内容及びその進捗状況などについて、簡単に説明させていただきます。お手もとの資料、「鎌倉市の観光」をご覧ください。表紙をめくりまして、1ページになります。

まず、鎌倉市の観光の現状として、鎌倉を訪れる観光客数でございますが、昨年、平成16年1年間で、約1816万人となっております。

これまで、年間約2000万人というのがトレンドでしたが、下のグラフにありますとおり、ここ数年は、若干減少傾向にありまして、約1800万人前後で推移しております。今年は、NHK大河ドラマ「義経」の放映もありまして、昨年以上の入込を期待しております。

次に、海水浴場の浴客数ですが、17年、今年の実績で約95万9千人になっております。これは先ほど説明しました観光客数の内数字になります。

浴客数は、天候に左右されてしまうので、傾向の把握は難しいですが、安定した天候であれば、80万から100万人近いお客様をお迎えすることになります。

ページをめくりまして、3ページになります。こちらには、主要な観光行事等の人出などをお示ししております。説明は省略いたします。

右側、4ページに移ります。鎌倉市の一般会計当初予算額を平成17年度、16年度と2ヵ年分お示ししております。

観光課が直接執行しているのは、表の中ほどにあります「40かん 観光費」の部分で、後ほど説明いたします観光課の事業経費や観光課職員の人件費となっております。

17年度は、約2億2千万円で、一般会計全体の0.4%を占めています。16年度は約2億4千万円でしたので、約1800万円、前年比7.8%の減となっております。

詳細は、ページめくっていただいて、5ページ、6ページにお示ししておりますが、5ページ中段にあります施設維持管理事業の公衆トイレの建替えにかかる経費が、対象施設

ごとに違うので、大きな増減の要因になっております。

具体的には、16年度は、瑞泉寺の改修と八幡宮近代美術館裏の建替えの経費。17年度は、鎌倉駅東口駅前の改修となっております。

その他、観光課が取り組んでおります事業としましては、観光マップ「鎌倉」や毎月発行の「四季の見どころ」の作成、各種の協議会と組んでの県外誘客キャンペーン、鎌倉駅東口の観光案内所の運営やホームページによる情報提供、公衆トイレ31ヶ所の維持管理、観光案内板やルート板など150ヶ所の維持管理、ハイキングコース3コースの維持管理などが、あります。

7ページに移りまして、こちらは、18年度からの実施に向けて、現在見直しが進んでおります「鎌倉市第3次総合計画」における観光の「現状と課題」「目標」及びその「施策の方針」を示しています。

次に説明いたします「鎌倉市観光基本計画」を分野別の計画としますと、それらをまとめた市全体の実施計画となっており、全庁統一的な整理をしておりますので、観光基本計画のくくり方とまた違った構成となっております。8ページには、総合計画の体系に併せた予算事業、主な取り組みを示しております。

以上が、鎌倉市の観光の現状等になりますが、これからご審議いただきます平成8年度策定の観光基本計画の内容について、簡単に説明させていただきます。

お手元に2冊のカラー冊子があると思いますが、厚さのあるほうが、基本計画の本書、薄い富士山の表紙が、そのダイジェスト版となっております。本日は、本書に沿って、内容の説明をさせていただきます。

本書の2ページからになりますが、こちらは平成8年の策定に際して、計画の必要性や目的、期間など、さらに当時の鎌倉観光の現状、特徴などが述べられています。

10ページになりますと、鎌倉観光の基本理念として、「住んでよかった、訪れて良かった」と思えるまちを、市民、観光客と行政がともに育てていくこととしています。

さらに、基本理念を実現していくために、6つの基本方針として、

- 1、歴史的遺産と自然の保全と、観光資源としての活用
- 2、環境にやさしい観光の実現
- 3、観光客、市民、事業者の相互理解
- 4、市民と観光客が共有できる観光基盤の整備
- 5、鎌倉観光の質の向上
- 6、観光による経済の活性化 をあげています。

こうした基本理念、基本方針を具体化するために、12ページに5つの目標を体系化しています。

目標1は、創る観光として、新しい魅力の創造などを

- 2、にぎわう観光として、観光を通じた活気あるまちづくりを
- 3、憩う観光として、快適に過ごせる観光空間の整備を
- 4、歩く観光として、楽しく歩いて観光できる環境の整備を

最後に5、もてなす観光として、観光客をあたたかく迎える観光地作りをそれぞれ、具体的に施策を展開していくこととしています。

具体的には、14ページから、それぞれの目標達成に向けた、具体的な事業内容、事業

計画を示しています。

14ページの先頭にある「新しい魅力の発見と付加」は、目標1創る観光の施策体系のひとつで、中央にある「歴史的公園の整備」「歴史等学習施設の整備」などが、具体的な事業名、そして、各事業の右側の説明がその事業の内容、計画を示しています。

以降、具体的な事業の説明となっております。

これら事業の進捗状況については、お手元の「鎌倉市観光基本計画進捗状況調査結果一覧」に、平成8年度から17年度までの各課の取り組み状況として説明しております。

資料「進捗状況調査結果一覧」をご覧ください。

表紙をめくりまして、1ページの上段に、目標である「創る観光」と方向性である「(1)新しい魅力の発見と付加」と示しています。さきほどの本書、14ページと連動しています。たとえば、歴史的公園の整備ですと、平成8年度から順を追って、17年度までの取り組み状況を説明しています。ここの事業の進捗状況について説明をいたしますと、時間もなくなりますので、省略させていただきます。

特に、観光課が主体となって取り組んできた、取り組むべき事業については、網掛けをしております。

取り組みの総括としては、出来ている分はご覧のとおりなので、観光課が取り組むべき事業のうち、5ページのにぎわう観光、(2)まちの賑わいの演出や6ページの(5)滞在型観光の推進、最終10ページのもてなす観光の(1)観光ボランティアの育成や(2)ホームビジット・ステイの推進、(3)観光人材の育成、(4)もてなす意識の向上運動などに対する取り組みが十分でなかったことが反省として認識しております。

以上で、観光の現状や基本計画の概要、進捗状況についての説明を終わります。

委員長；

ただいま、事務局から説明がありましたが、本日は第1回目ということもあり、皆さんから順にご意見を伺えればと思います。

委員；

市民レベルで考えると、一般市民は、鎌倉市の観光に対する政策も方向性も理解していない。逆に言うと、市民が鎌倉を観光都市として意識していくように、市民が意識変革をしないといけない。鎌倉には、自然、景観、武士の発祥の地などの特徴や絵画、文学などの文化の面も充実している。何も無い都市は町づくりを工夫している。それに比べるとたくさんある。

これらの資源を有効に有機的に機能させて、世界有数の観光地として認識されるようなまちづくりをしていきたい。その辺が進捗状況の中から見えてこない部分だった。とにかく観光資源や観光的宝はたくさんあるので、その活用を十分図るべきではないか。また、予算のあるなしではなく、自己完結的にお金をもうけて発展させていくことも重要ではないか。いかにお金を調達していくか、事業的なことを形にしていくかという視点が大事ではないか。

委員；

事前に資料を見て、取り組んでいることが多いので、ひとつずつクリアしていくのは難しいと思うが、概ね出来ているという印象である。お寺のトイレの改修に経費がかかり、市が負担しているとは思わなかった。コンビニもお手洗いを使わせてくれている。ウエルカム精神ではないかと思うと、お寺のトイレもお寺が負担すべきなのではと思う。

資料の説明にもあったが、進捗状況の悪い「もてなす観光」などの部分は、市民にも求められていることと思う。京都市民は概して優しい印象があるが、鎌倉市民は車が混んで迷惑とか、冷たい面が目立つようである。

市民の中には、鎌倉検定を行いたいと活動している人たちもいるようなので、もてなす意識の向上を目指すうえでも有効ではないかと考える。

委員；

観光客数の状況を見ると、無料施設は増えて有料施設の人数が減ってきている。無料施設イコール屋外で楽しめる方向にシフトしているのではないかと。平成2年頃に1日乗り放題の乗車券を作って現在に至っているが、その当時は、美術館などが増えたからということになっていた。現在の観光客は、箱ものではなく、屋外のエコフィールドなどに流れているようである。

各行事も人出が増えているようで、イベント志向は強まっているものと理解できる。また、イベントも1日だけの企画ではなく、クリスマスイルミネーションなら3日前、1週間前、1ヶ月前とどんどん延びてきている。同じコストをかけるなら、期間をかけて集客につなげるようにしたい。

今後の課題として、中長期のスパンで考えることが必要では。

委員；

鶴岡八幡宮の現状としては、この週末も「義経」や紅葉のせい、すごい人出でした。神社としても、交通整理やごみ拾いに追われてしまった。神社は、基本的に自由に出入りできる場所なので、大勢の方がいらっしゃるのはやむを得ない。しかし、本来は人々に安らぎを与え、自分を取り戻す空間であってほしいと願っている。年末年始など特別なときは警察にもお世話になるが、とにかく安全に気を使っている。

トイレについては、今回市できれいにしてもらったが、まだ足りない。神社としても作って市へ移管、維持管理をしてもらうということで協力しているが、公園ではないので本当は境内に作るのはいかがでしょうかという考えもある。

神社の中では、お宮参りや七五三などのご祈祷を粛々と行っているのに、ラフな服装や遊び心で来ている人が入り交ざっている。儀礼や伝統、文化を日本人、諸外国の人にもっと見ていただきたい。

委員；

海も究極の癒しの場と思っている。海水浴場と限定されるとうるさいとかの印象をもたれてしまう。しかし、鎌倉市の海水浴場は120年以上の歴史を持ち、お客様の年代層も高く、周辺とは一味違う落ち着きを持っている。その辺を市民にも見直してもらいたいと

思っている。

市内全体から見ると、鎌倉には神社仏閣もあり、海で遊んだ後は、長谷観音でも観て帰るといった他にはない魅力を持っている。また、養浜対策は必要で、稲村ガ崎の海水浴場が閉鎖されたり、材木座は波が高いと海の家のおすぐ前まで波が来てしまう現状にある。

夏だけにとらわれなくて、年間通して海の活用を考えたい。

委員；

前計画から10年たって検証してみたところ、めざすべき柱は、持っている資源や深さなりから考えると、ベクトル方向性は変わらないのではないかと。しかし、行政の計画にはよく欠けている点がある。もてなすお客さんとはどういう人のことを言うのか、どういう人をターゲットにしているのか、マーケティングの話である。外国人や小中学生、日帰り客が増えている、だからもてなして行こうだけでは雑ばくである。観光客、旅行者、みな個人の時間、志向で動くようになってきている。大手の旅行代理店が苦しんでいるのもそこにある。効率、大量の時代は良かったが、個人の要求が高まっている。地域も同じである。

鎌倉は、海外から東京に来ているインバウンドの客から周辺の住民まですべて惹きつける可能性を持っており、そういうターゲットを受け入れるポテンシャルを持っている。逆に難しいが、鎌倉だからこそできることに目を向け、数字だけ伸びれば良いという時代ではない。たとえば、100万人の日帰りを増やすより、10万人の宿泊客を増やすほうが地域にとっては好ましいこともある。質が高く、資源も多い。海も海水浴だけでなく、レクリエーションの場としてのマーケットを満足できるか、コントロールしてもらいたい。

10年間の検証結果を見ると、矢印が多いとはいえ、主管である観光課だけでなく全体をきちんと検証して新たな計画に取り組もうとしていることは評価できる。

また、計画の最後に推進体制として、簡単にふれられているが、あるべき論だけでなく、行政、観光協会、事業者、市民、ボランティア、NPOなどの役割についても議論をすべきである。また、1次産業に従事されている方とのつながりも大切である。エコツーリズムなども同様である。民間レベルでのパートナーになる仕組みと体制作り役割が今回の計画では重要となるのではないかと。

委員；

観光協会としては、主要な観光行事に取り組んでいる。花火大会は、8月の第二火曜日に26万人のお客様をお迎えしている。海岸のキャパシティが15万人と言われているので、2倍弱の人数である。協会としても安全を第一に楽しんでいただけるよう苦労している。他にも鎌倉まつりなどあるが、協会の行事も今までの良いところを残しながら、市民にも楽しんでいただけるように考えたい。

一方、お客様のモラルの問題もある。ごみの問題もどうするか考えたい。鎌倉になぜ観光に来るのか、八幡宮、海、鎌倉らしい雰囲気、黙っていても来ると思っている。でも、黙っていたら来なくなる。やはり、もてなす意識が重要では。ただし、来られて困るというのもあるので、何か条例をつくるなど、ある程度枠を作っても良いのではないかと。コンシェルジュ、もっと進めてほしい。ホテルのコンシェルジュにも、観光ガイドをお願いし

たいと思っても、誰に頼んでいいのかわからないと言われる。ガイドの養成や通訳の充実も考えていきたい。市民の意識改革も必要だと感じている。

委員；

観光客とはどういう人なのかを考えるのが大前提。鎌倉霊園に来た人も観光客なのか。北鎌倉に来る人はどうか。純粹に観光客、リゾート、レクリエーションできているのかどうか、切り分けができるのか、観光客という概念のイメージを考える必要がある。

鎌倉で生まれ育ったので、八幡宮の境内を通り、第二小学校へ通った。建長寺の裏山で遊んだ覚えがある。この年になって恩返しをしたいと思っている。4年先には、世界遺産登録をめざして市も取り組んでいるが、いまひとつ盛り上がっていないようにも感じている。世界の人は鎌倉のどこを何を感じにくるのか。

フランスのヌーベルクイジーヌやイタリアのスローフード、日本人がアメリカで始めたマクロビオティクスなどは、日本料理の影響が強く、鎌倉時代の禅の影響があると思う。海外からの来訪者は我が国の歴史に興味を持って来るので、宗教をきっても切り離せないのではないか。行政ではタブーかもしれないが、踏み込んで、鎌倉とは何なんだと考えたい。

広域として、横浜や静岡ぐらいいまでも考えるべきではないだろうか。鎌倉の中だけを考えてもだめなのではないだろうか。これからは、本物を味わえる観光が伸びるだろうし、求められるだろう。数だけでない質の問題がこれから問われる。海外のサービスを知っている団塊の世代が来るようになる。パッケージではなく、オーダーメイド セミオーダーメイドすべきである。

観光に対する予算の少なさを感じている。鎌倉にとって重要な産業なんだから、しっかりつけるべきだし、産業界からも求められる。顧客満足が住民満足に成っていない現状をふまえ、住む人達の満足イコール来る人の満足というところを考えていきたい。

委員；

県全体を見てみると、今ある資源をどう磨くか、地域によってはほこりをかぶっているようなものもあると感じている。新たなものを創り出すことは大変お金がかかります。財源が厳しい中では、今あるものを生かしていく必要があります。参考までに観光振興にかける県の予算は、17年度が約2億2000万円で、商業振興費は約19億円である。横浜市は約48億円。県内市町村合計では約78億円です。それぞれの行政でこれだけ使っていますが観光振興に関する費用対効果は見えにくい。

入り込み観光客数の調査もデータ面でしっかり把握できていない。戦略的につながるような基礎データがない。外国人も増えていると思うがデータとならない。経済波及効果も観光振興に役立つようにデータを構築したい。来年には国が宿泊部分だけでも行うと聞いているが、県としても取り組んでいきたい。

事業としては、プラン、ドゥ、チェック、アクションのPDCAがなされていない。何のためにやっているのか。わかりやすい目標をたてること、観光は具体的な表現をしてもらいたい。

委員長；

1 回目ということで皆様のご意見を伺いました。時間の関係もありますので、話足りなかったことや今後の鎌倉観光のあるべき姿などをあらためて事務局に提出することとしたいと思います。事務局どうでしょうか。

課長；

ありがとうございます。フリーペーパーで結構ですので、事務局までメールや FAX などをお願いできればと思います。年内にいただければ、次回の議論の題材にしたいので、年内をめどにお願いしたい。

なお、先ほどご意見のありました公衆トイレの整備費用の件ですが、観光客が訪れる場所は市が建てていますが、寺社境内の中、寺社等が建てたものを市が寄附していただいて管理している。一般の誰でも入れる場所です。拝観料を払って中まで入るお寺の境内にあるのは、そのお寺さんが負担している。

5 . その他

委員長；

それでは、5 その他について、何かありますでしょうか。
特に無いようなので、第1回目の委員会を終了いたします。ありがとうございました。

< 終了 >